

2016年11月15日

厚労科学研究「子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と
情報提供についての研究」（代表：信州大学医学部池田修一教授）の
研究発表に係る信州大学調査委員会の結果公表に対するコメント

医師・ジャーナリスト 村中璃子

先般、私が月刊『Wedge』7月号「子宮頸がんワクチン薬害研究班 崩れる根拠、暴かれた捏造」で科学不正を指摘した実験について、信州大学の調査委員会が「不正なし」との結果を出したとの発表を聞き、非常に驚いております。

信州大学は、予備的な実験を確定的に発表したことは研究不正とまでは言えないが猛省が求められるとしていますが、これは十分研究不正にあたる行為です。また、私の取材に対するB特任教授の説明によれば、この実験は予備的ではない実験であり、「子宮頸がんワクチンによって脳に自己抗体が沈着した」という発言をするためにデザインされたと認定すべき作為的な実験です。池田修一教授は研究班全体を管理統括する主任研究者の立場にあり、かつ、池田教授に実験内容を報告したというB特任教授の説明に基づけば、池田教授は、この実験の問題点を十分に分かった上で確定的な発表を行っており、これは研究不正、ひいては「予備的ということすら言うことのできない事実を確定的に発表している」という意味で、捏造と呼ぶにふさわしい行為です。

調査委員会は、B特任教授に対する取材テープを私に提供要請することもなく、本人らの事後的な説明に基づいて「不正なし」との結果を出しており、調査委が適切で十分な調査を行ったのか疑問があります。

以下、詳述します。

第1に、信州大学には代理人を通じ、実験ノート、スライド等のローデータの開示を求めておりましたが、2016年11月11日付けで開示しないとの通知がなされました。池田教授も信州大学もなぜ実験内容に関する透明性を保ち、他の研究者が検証できる形で真実を明らかにしようとししないのかが不明です。

第2に、本調査委員の人選です。本研究には、マウス実験、免疫学（特に神経免疫学）、人類遺伝学（遺伝統計学を含む）、神経病理学に詳しい研究者の参加が不可欠ですが、そのような委員は1人も選ばれていません。また、委員の1人は池田修一教授と数年前まで同じ研究班に所属しており、直接の利害関係があることから委員として妥当ではありません（「信州大学の研究活動における不正行為の防止等に関する規程」第29条

2)。通報者はこの人選に異議を申し立てましたが、大学は具体的な理由を明示することなくこれを却下しています。

第3に、本研究は、仮に予備的なものであるとしても、ワクチンがヒトの脳にもたらしている障害を検証するための動物実験としては極めて不適切なデザインをもち、データの提示方法も不適切です。実験の発案者・実施者 B 特任教授は、記事で指摘したとおり、私の取材に対し以下のようなポイントを語っていますが、その内容と調査委員会がヒアリングしたとされる内容との間には大きな隔たりがあります。なぜ B 特任教授が言うがままを適当とし、通報者であり、かつ、B 特任教授から「大変な発表が世に出てしまった」として本実験の共同研究の相談を受けていた研究者、及び私に対してヒアリングを行い、真実が何であるのかを判断しなかったのでしょうか。はなはだ疑問に感じます。

B 特任教授の語ったポイントは――

- ▶ ヒト換算 100 倍量のワクチンを投与した
- ▶ 飼っているだけで自己抗体のできるマウスを用いた
- ▶ 「サーバリックス（子宮頸がんワクチン）だけに自己抗体（IgG）沈着あり」と示された画像は、ワクチンを打ったマウスとは別のマウスの脳切片であり
- ▶ 他のワクチンでも緑に光った脳切片があった
- ▶ スライドは N=1、すなわちマウス 1 匹に起きていた結果だった

上記、いずれのポイントも「ワクチンがヒトの脳にもたらしている障害を検証するための予備的実験」とは何の関係もなく、何を目的として設定されたものであるのか不明です。

第4に、このような不適切な内容の予備的な実験であったにもかかわらず、主任研究者の池田教授がメディアにも公開された厚労省の成果発表会という公的な場と社会的インパクトの大きな主要なニュース番組で、ワクチンがヒトの脳に障害をもたらしている根拠が得られたかのような断定的な発表を行っており、その内容を私どもは再三、説明するよう求めていたにも関わらず、提訴という形でしか回答が得られなかった点です。

具体的には、3月16日放送のTBS「New23」において、池田教授は「子宮頸がんワクチンを打ったマウスだけ脳^の海馬・記憶の中核に異常な抗体が沈着。海馬（記憶の中核）の機能を障害してそうだ」と明言。同日の厚労省成果発表会でも同様の発言をしました。

また、同番組で池田教授は「明らかに脳に障害が起こっている。ワクチンを打ったあと、こういう脳障害を訴えている患者の共通した客観的所見が提示できている」と断定的な発言をしています。

日本学術振興会 の研究倫理ガイドライン「科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得」<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf> には、「好ましくない研究行為」として、「研究試料・研究データの提供拒絶」と「研究成果の不誠実な発表（特にメディアに対して）」を挙げています。

以上